2023年6月10日

◎令和5年度　東大和市災害ボランティアセンター設置・運営訓練

南街・桜が丘地域防災協議会　本部

今年度で9回目となる東大和市社会福祉協議会主催の、「東大和市災害ボランティアセンター設置・運営訓練」が、本日ハミングホールにて実施されました。

センターは「東大和市地域防災計画」により、大規模災害の発生時、市と社協とが連携して、市民会館（ハミングホール）に設置することになっています。さらに社協は市と、「災害時におけるボランティア活動に関する協定」を締結し、「東大和市災害ボランティアセンター設置・運営マニュアル」（最新版：R5．１．４）を作成して、センターの円滑な設置・運営、災害復興を目指しています。

今年度は、前半に「被災者にどのように向き合うか」をポイントとしての訓練が、後半に「被災者と支援者を繋げる」「被災者と繋がる」をキーワードとしての講話が、実施されました。

【前半（9：30～12：00）災害ボランティアセンター設置・運営訓練：参加者55名】

（参考：シナリオ　P11）

★集合、あいさつ、自己紹介（小ホール）

東大和市社会福祉協議会
事務局長様

東大和市災害ボランティア
センター協議会　会長様

講演会講師　福田様

★災害ボランティアセンター設置（小ホール）

★相談受付開始（被災者支援班が、被災者からの相談を携帯電話にて受付。
「ニーズ（電話）受付票」作成。）

G 班

H 班

I 班

J 班

K 班

L 班

M 班

N 班

★訪問調査（被災者役訪問。ニーズ（現地調査）受付票記入）

A 班（高齢者：独居）

B 班（高齢者：コロナへの恐怖心強い）

C 班（高齢者：避難所生活拒否。
情報ほしい。）

D 班（コロナ罹患者。夫が罹患。）

E 班（認知症高齢者：物忘れ、
食に不安。）

F 班（知的障害者：言葉の理解が無い、
食事介助必要。）

G 班（ペットと一緒
：ペット同伴の避難所生活希望、
餌が無い、散歩に行けない。）

H 班（精神障害者
：独居、話がまとまらない。）

I 班（視覚障害者
：避難所での生活が不安）

J 班（肢体不自由：車いす生活）

K 班（認知症高齢者：物忘れ、避難拒否）

L 班（外国人:情報が分からず不安）

M 班（生活困窮者
：こども多い、食べ物不足。）

N 班（妊婦：食べ物に困窮）

★「ニーズ（現地調査）受付票」完成、振り返りシート作成

★被災者役と合流し、反省・共有。

★反省・感想の発表

★総務班の活動

（センター全体が円滑に運営されるよう細やかな心配りにより、臨機応変の対応を行う。）

被災者支援班の訪問先記入をサポート

広報（Twitter への随時の情報発信）

活動集計（「ニーズ受付一覧」の作成）

★講評

講評
災害協働サポート東京　福田様
（後半講演会の講師）

【後半（14：00～15：30）講演会（「繋がる・繋げる・災害支援」）：参加者約80名】
（参考：チラシ　P12）
★受付（13：30より）（後半からの参加者に、氏名・住所・電話を記入してもらう。）

★ごあいさつ

東大和市社会福祉協議会
会長様

東大和市
市長様

司会
東大和市社会福祉協議会　様

★講演「繋がる・繋げる・災害支援」（災害協働サポート東京　理事　福田信章　様）

講師プロフィール

福田信章氏
（災害協働サポート東京　業務執行理事/事務局長）
（東京災害ボランティアネットワーク　事務局長）

阪神・淡路大震災時に学生ボランティアとして被災地で活動。帰京後は学生ボランティア団体で活動後、多様な団体の「顔の見える関係」の構築を目的とした東京災害ボランティアネットワークの事務局として、地域や団体の防災・減災活動のプログラム作りや実践を担当。また三宅島噴火災害や東日本大震災、伊豆大島土砂災害等で被災者支援活動に取り組む。2021年8月に発足した災害協働サポート東京には、準備会から関わり、法人化に伴い業務執行理事として活動をはじめる。

仲間と共に

みなさんの地域のみんなとつながってください

- 地域の現状（災害時の地域も）を地域のみんなで把握してください
- 地域で予想される災害時の課題を地域のみんなで共有してください
- 地域の防災力（地域力）を地域のみんなで見直してください
- そして災害によってなくなる命を地域のみんなで守ってください

防災はともだちづくりから

- 1995年の阪神・淡路大震災後の1996年から数年にわたって神奈川県で開催されていた「防災ギャザリング」という市民イベントのワークショップの中で、当時、被災者支援ボランティア活動を神戸で取り組んでいた若者が地域で防災活動を始めるためのコツ（極意）を一言で表したもの。
- ともだちをつくるのは楽しいし、輪が広がっていくのは嬉しい。でも、「助けてー！」と言えるともだちをつくるのは結構大変。
- 楽しいし、嬉しいけど、結構大変。防災は、結構大変だけど「助けてー！」と言えるともだちがいればお強い。
- まずは、「助けてー！」と言えるともだちづくりから。
- そして、一緒に防災/減災活動に取り組める「仲間づくり」へ

★終了ごあいさつ

東大和市災害ボランティアセンター協議会
会長様

【災害ボランティアセンター設置・運営訓練　シナリオ】

全体の流れ

前日までの流れ

5/23まで	担当者	・フォーマット作成 ・動画の準備	ボランティア受付のフォーマットを作成し、自動返信で動画のURLが申込者に送付されるよう設定を行う。			
	ボランティア			総務班	メール送付	ボランティア役に受付のフォーマットをメールで送付する。
6/4まで		ボランティア申込み	ボランティアのフォーマットに入力し、自動返信で送られてくるオリエンテーション動画を視聴する。			
	担当者	マッチング	事前にマッチングを済ませておく。		名簿作成	入力データを元にボランティア名簿を作成し、訓練当日に受付に用意する。

当日の流れ

9:30	全員	ハミングホール	あいさつ　流れの確認　自己紹介				
9:45	被災者支援班	災害ＶＣ設置	掲示物、物品、受付場所を設置。	被災者	セッティング	会場を設置。（各自椅子と机を設置する。）	総務班	①消毒を行う（定期的に） ②スタッフの状況を把握する ③ニーズ受付をデータにする ④写真を撮る ⑤日報を作る ⑥センター長に活動の状況を報告する。
10:00		相談受付	電話で被災者からの相談受付、訪問先を地図等で確認。 2人１組に分かれ、各組1件の相談対応。 ※電話の初めに、相談者の体調の確認を行う。 ※訪問調査を手短に行うため、電話で聞き取りをできる部分は聞き取りを行う。		電話相談	ボラセンへ電話し、シナリオに従い相談を行う。（電話は社協が用意） 住所等をスタッフへ伝え、訪問を受ける約束をする。		
10:20		訪問調査	各組、１ケース現地訪問し、調査する。 困りごとを聞き取る。 ※電話対応をしていないスタッフが主導となり対応する。 ※訪問先に上がる前に、手指のアルコール消毒をする。 ※訪問先に着いたら、相談者の体温を測る。		相談	スタッフの訪問を受け、具体的被害を伝える。 困りごとややってほしいことを伝える。		
10:35		ニーズ受付票作成	訪問終了後、小ホールへ戻り「ニーズ受付票」を作成。		振り返り	振り返りシートを記入する。 相談内容を正確に伝えることができたか等の振り返りをする。		
10:55			振り返りシートを記入する。（５段階評価で実施） 現地訪問した後、事例の聞き取りが正確にできたか等の振り返りをする。	被災者	片付け	スタッフが帰宅したあと、会場を片付け、本部のある場所に戻る。		
11:00 ～ 11:25		反省共有	担当のスタッフと共有する。 改善点を確認する。 心配事を聞き取れたか確認する。		反省共有	全体の振り返りを行う。 担当のスタッフと共有する。 改善点を確認する。		
11:25～ 11:45		発表	グループごと発表する。		発表	グループごと発表する。		
11:45	全員	講評　福田氏、岡田氏						
12:00	全員	終了						

【講演会（水害）のチラシ】

水害をテーマとした講演会を開催します

「繋がる・繋げる・災害支援」

社会福祉協議会は、大規模な災害が発生した場合、市との協定に基づき「災害ボランティアセンター」を設置し、復興の支援を行います。災害後の復興は大きな労力が必要であり、市民同士、被災者と支援者、専門職能団体など、重層的な「繋がり」が必須です。そのため、平時からの連携や協働が欠かせません。

今回は、被災現場を知る講師から、「繋がる・繋げる・災害支援」をテーマにお話しいただきます。ぜひご参加ください。

平成27年9月関東・東北豪雨

平成３０年７月豪雨

日時：令和5年6月10日（土）14:00～15:30
※受付は 13:30 から

場所：東大和市民会館ハミングホール

無料

定員：300名（先着順）

対象：市内在住の方・自治会関係者・防災リーダー。災害ボランティアや防災について興味関心がある方。

講師：福田信章氏（災害協働サポート東京）

※手話通訳あり

＜問合せ・申込先＞　締切：6／2（金）
東大和市社会福祉協議会
TEL:042-564-0035
FAX:042-564-3680
申込フォームはこちらから

主催：東大和市災害ボランティアセンター協議会
東大和市社会福祉協議会

以　上